

地歴公民(世界史) 慶應義塾大学 商学部 1/2

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

マーク式・記述式・論述式

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・**変化なし**・**やや難化**・難化)

大問数は従来と同じ3題。マーク式の空欄補充語群選択問題の総数が60問から57問に減少したが、記述・論述式の総数は1問増加したため、全体の分量にほぼ変化はなかった。難易度は、細かい用語や文化史の出題が増加したことから、全体的にやや難化した。

出題の特徴

マーク式の空欄補充問題を中心に、下線部対応の記述式と論述式の問題が出題される近年の形式が維持された。史料問題や地図問題は出題されていないが、地理的な知識が必要な問題が出題された。

その他トピック

昨年度は年号や年代をはじめ数字を問う問題が10問出題されたが、今年度も年号問題が6題出題された。例年、現代世界の諸問題にかかわるテーマを扱うのが商学部の特色であり、第二次世界大戦後の現代史からの出題も近年増加傾向にあったが、今年度は時事問題や戦後史の問題が出題されなかったことが大きなトピックといえる。また、今年度は文化史が例年に比べ多く出題された。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	マーク式 記述式 論述式	モンゴル帝国・元・明・清の統治政策とその限界	問1(1)(2)・(31)(32)はともに細かいが、一部の教科書に記載がある。(23)(24)この出来事が「土木の変」であることを想起して解答したい。(33)(34)林則徐が欽差大臣に任命されたのは1838年なので、紛らわしい。問4は、長江の中流域と下流域双方について字数内に記述できるかがポイントとなる。問7地理的な知識が必要な問題。本文中に広州があるので、判断に迷った受験生もいたであろう。廈門と福州を取り違えないようにしたい。	やや難
II	マーク式 記述式 論述式	歴史上における「連合」の意義	(59)(60)スイスの独立が国際的に承認されたのはウエストファリア条約、問3「北ドイツの都市間で結ばれた代表的な同盟」はハンザ同盟のこと。慶大商学部受験生であれば容易に想起できたであろう。(67)(68)直前の「共和国の主権は」を見落とすと16.オランダ総督を選んではしまう可能性がある。また61.連邦議会との判断は難しい。問5「中間団体(社団)」というキーワードを想起できるかがポイントとなる。	標準
III	マーク式 記述式 論述式	ナショナリズムの歴史(ヨーロッパ近代)	問1(77)(78)は教科書に記載がなく難問である。(85)(86)ベルギーで独立革命が始まったのは1830年であるが、ベルギー王国が成立したのは翌1831年であるので気をつけたい。(93)(94)細かいが、一部の教科書に記載がある。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

慶應義塾大学の商学部は、学部の性格にあわせた社会経済史のテーマ問題が出題される。特に、16世紀以降の世界の一体化に関する問題は頻出である。また、40字程度の論述問題なども出題される。このような問題に対しては、世界史用語の暗記だけでなく、前後関係や因果関係をしっかりと理解しておく必要がある。また、今年度は出題されなかったが、現代社会の諸問題からの視点の問題も多いので、普段から、現在世界で起こっていることと、世界史の学習内容の関係について、考える習慣も身につけておきたい。